

中山寺地車
新調入魂式

令和六年九月

中山寺地車保存実行委員会
市杵島姫神社宮総代

中山寺地車
新調入魂式

令和六年九月



中山地区の地車（だんじり）の歴史を示す最も古い記録は「明治13年9月に西谷村長谷に先代地車を売却」というものであり140年以上の歴史を持つ祭りであることが分かっています。明治14年には川面東から地車が購入されたとの記録もあり、旧地車はそれ以前に制作されたものであると推測されています。



現在、中山地区の地車は、市杵島姫神社秋季大祭に合わせて毎年10月23日と24日に町内を曳行します。さらに、宝塚だんじりパレードにも毎回参加しています。

地車の曳行には、幅広い年齢層の人々が参加しており、地域の伝統行事としてだけでなく、地域コミュニティを活性化する場としても重要な役割を果たしています。



中山地区の地車は地域の皆様に親しまれ、大切に守り継がれてきました。しかし、土台、柱、屋根などの損傷が年々悪化しており、安全な曳行が困難な状況となっていました。このような状況から、地車という貴重な文化を次世代に引き継ぐため、地車を新調することとなりました。

今回の地車新調は、地域の皆様の暖かいご支援と協力のおかげで実現しました。この場を借りて心からの感謝を申し上げます。





製作年

不明

製作者

不明

柱の形状などから複数の地車を組み合わせて作られた可能性が高い。

寸法

全幅 2.40m

全長 4.06m

全高 3.64m

明治14年に川面より購入したものと考えられるが、残念ながら中山地区には旧地車本体に関する記録は残っていない。

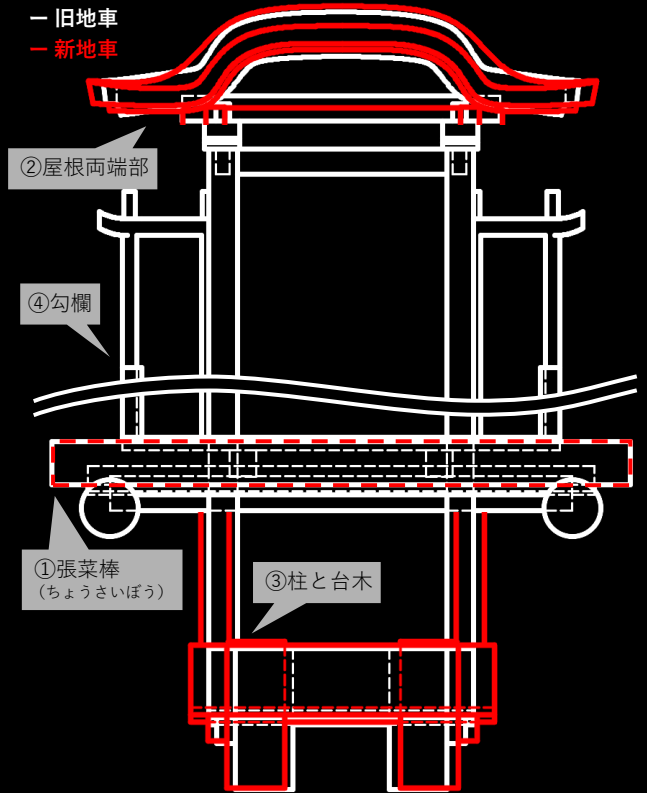
修理に関する最古の記録は昭和5年の車軸新調であり、それ以降、本体各部の修理や補強、装飾部品の追加などが町内で実施され現在に至る。

地車 本体

中山地区の地車は、狭い道を通りながら町内を隅々まで曳行するため、地車本体の寸法や形状は大きく変えずに新調しました。特に中山寺山門から市杵島姫神社に向かう道では道幅と地車の幅（①張菜棒の幅）がほぼ同じであるため、全幅は旧地車と合わせています。

屋根の形状は、旧地車では②屋根両端部付近が緩やかに下がっていましたが、新地車では宝塚型の地車として一般的な水平に近い形状に見直し、幅も少し広くしました。また、これに合わせて柱と台木の間隔を広げることで、安定感のある地車となりました。

地車本体の木材は全般的に檜を使用していますが、④勾欄などの一部には黒檀を採用しました。また、柱や梁には旧地車に比べて多くの彫刻を施しています。これにより、一層格調高い地車に仕上がりました。



旧 見送り幕



新 見送り幕



幕を新しくする計画にあたり、龍・虎のデザインの変更はせずに既存の図柄、色を復元することになりました。

旧幕の刺繍部分をほどいた時の糸の色、幕のベースの色などが経年劣化により製造時点（約50年前）の色彩とかなり違うことが判明しました。幕を制作していただいている辰美工芸様と打合せを繰り返し何とか刺繍の糸の色やデザインを再現する事ができました。龍や虎の刺繍は旧幕にも勝るとも劣らない出来だと思っています。

幕担当者



小屋根 飾目（しかめ）

「弁財天」

新地車には市杵島姫神社に祀られている市杵島姫命に関連する彫物が多数あります。小屋根の飾目は市杵島姫命と同一視されている弁財天です。音楽の神である弁財天に因んで、勾欄には雅楽の楽器があしらわれています。市杵島姫命は天照大神と素戔鳴尊の誓約により誕生したとされ、その様子は火燈窓に描かれています。

大屋根・小屋根 懸魚（けぎょ）

「天岩戸」「八岐大蛇退治」

大屋根と小屋根の懸魚はそれぞれ天照大神と素戔鳴尊の物語となっています。大屋根の懸魚には天照大神が天岩戸に籠られた様子が、小屋根の懸魚には素戔鳴尊が八岐大蛇を退治の様子が描かれています。なお、宝塚型地車の中で懸魚が人物を描いた彫物となっているのは、この地車のみです。



大屋根 懸魚「天岩戸」

大屋根 車板（くるまいた）

「中山寺縁起」

大屋根の車板は中山寺の歴史を描いています。右側には中山寺を創建した聖徳太子、左には後述の勅使、中央には中山寺に縁のある荒木村重が描かれています。



左：勅使（武内宿禰） 中央：十一面観音と荒木村重 右：聖徳太子

脇障子

「足洗川・勅使川」

脇障子は中山地区を流れる川に残る伝承を基にした意匠です。足洗川は聖徳太子が黒駒に乗りこの地を訪れた際に馬の足を洗ったことに由来しています。勅使川は応神天皇の勅使である武内宿禰が中山寺境内にある石の唐櫃に対峙する前にこの川で禊祓を行ったことに由来しています。



縁葛（えんかずら）

「秀吉 中山寺子授け祈願」 ほか

縁葛は中山寺と縁のある豊臣秀吉に因んだ意匠となっています。四方の彫物は正面から左回りに並んでおり、右側面の彫物は子授け祈願に中山寺を訪れた秀吉を描いたオリジナルの意匠です。



祝 辞

新調地車の完成おめでとうございます。晴れてこの日を迎えることが出来ましたのも、ひとえに氏子の皆様、自治会員ならびに各種団体の皆様方のご支援ご協力の賜物です。深く感謝を申し上げます。

中山地区は昭和四十年代まで、田畑の広がる風光明媚な農業が盛んな地区でありました。

そんな地区の信仰の象徴である氏神様（市杵島姫命）へ感謝を捧げる秋祭りに五穀豊穡や無病息災を祈願し、毎年地車を曳行して参りました。しかしながら、令和三年に旧地車の状態を大下工務店様に診断していただいた所、激しい損傷が見られ、いつ損壊してもおかしくない状態との結果を聞き、愕然としたことが思い出されます。

毎年当たり前のように行われてきた秋祭りの地車曳行ができなくなるの思いから、すぐに地車保存実行委員会を立ち上げ、今日まで宮総代および実行委員会で新調に向け協議努力して参りました。

現在の中山地区は、田畑もなくなり住宅地が広がる地区となり、氏神様や地車の在り方も日々変化してきているのかと感じております。

しかし私達にとって、祖先から受け継がれてきた祭りが人々との親睦の場であることは、昔も今も変わっていないのではないのでしょうか。

この先、五十年、百年と受け継がれていく地車が完成したことは、この地区の喜びであり新しい歴史の始まりだと思っております。

皆様方から頂戴いたしましたご支援ご協力は、しっかりと次世代へ受け継いでいく所存でございます。

今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

誠にありがとうございます。

中山寺地車保存実行委員会
会長

平素は市杵島姫神社の諸行事に多大なご支持を頂き厚く御礼申し上げます。

この度、約百五十年の歴史を刻む地車の幕が閉じ、新たに地車を新調なされた事、誠にめでとうございます。

中山寺地車保存実行委員会のご尽力と数多くの皆様のご奉賛の協力に心より深く敬意を表します。

時は変われども地域の皆様の触れ合いの場、憩いの場として

市杵島姫神社秋季大祭の時には地車を囲み、盛大な祭祀に成ること期待しております。

伝統ある中山寺地車保存会、市杵島姫神社の遺風を顕彰し、益々の発展と皆様のご健勝、ご多幸を祈念しお祝いの詞とさせていただきます。

市杵島姫神社宮総代

代表

平素は地車保存会の運営にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、地車の新調にご協力頂いた方々に、心より感謝を申し上げます。

私事ではございますが、保存会会長の大役を十一年務めさせて頂いた、また最後の大事な事として念願の地車新調に携われたことは、万感胸に迫る思いでございます。

今後は、諸先輩方から受け継いできた熱い思いと経験をこの新調地車と合わせ、後進へ引き継いでいきたいと存じますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

中山寺地車保存会

前会長

施工協力業者一覧

地車本体

株式会社大下工務店

刺繍幕

辰美工芸株式会社

提灯一式

明珍商店

寄付金芳名板

精和電機産業株式会社

市杵島姫神社宮総代

ウェブ公開用に省略

中山寺地車保存

実行委員会

ウェブ公開用に省略